

2015 年度第 5 回日本語教育研修会

TAE 研究会代表・開智国際大学教授
得丸智子

テーマ:日本語教師として輝き続けるために - TAE を使って内省的実践家をめざそう -

研修会の報告

TAE (Thinking At the Edge) は、「ぼんやり感じていること」を明確な言葉に展開する「ことば化」のための方法です。ステップと呼ばれる独特の「問い」が、実施者の「ことば探し」の自問自答プロセスを促進します。ユージン・ジェンドリンとメアリー・ヘンドリクスが開発し、得丸 (2010) 他で、日本語版が紹介されています。2015 年には、ウェブ上でワークシートが無料ダウンロードできるサイト「TAE リフレクション (TAE.net)」も公開されました。

今回の研修会は、次のような講師からの呼びかけで始まりました。

日本語教育界でも「内省的実践家」という言葉が聞かれるようになりました。でも、「内省って何？どうすればいいの？」と、疑問を持つ方が多いのではないのでしょうか。このワークショップでは、手軽に取り組める内省法 TAE(Thinking At the Edge)を紹介します。ウェブサイトから、無料でワークシートがダウンロードでき、誰でも取り組みます。あなたは日本語教師として、自分の仕事に満足していますか。毎日、楽しく授業をしていますか。教室でのあなたは、生き生き輝いているのでしょうか。TAE を使って振り返ると、教師として、進んでいきたい方向が見えてきます。内省の成果を実践研究に発展させることも可能です。実践研究論文を書きたい方も、どうぞ、お越し下さい。

これに応じ、大学、高校、補習班、個人教授等の日本語教師、大学院生他、24 名が参加しました。

オープニングの挨拶の後、ホワイトボードを使って、ミニ講義をおこないました。「内省」とは自問自答であること、自問自答をおこなうためには、自分と向き合う「問い」が必要だけでなく、安心して自分と向き合える「場」の存在が重要であることをお話しました。

その後は、ウェブサイト「TAE リフレクション」から無料ダウンロードできる「TAE シート」を使用しながら進めました。今回の研修会で使用したシートは、「2. 実例シート」「3. 把握シート」「6. パターン抽出シート」「7. パターン一覧シート」「8. 交差シート」「9. 用語選定シート」「17. まとめシート」です。

「2. 実例シート」に「自分が日本語教師として輝いていると感じた場面」を2つ以上書くことから始めました。「授業がうまくいったと感じた場面は？」「教師としてやりがいを感じた場面は？」と、ポジティブな「問い」により、教育経験を振り返りました。いくつかの経験を書いた後、経験ごとにハサミで切り離しカード状にしました。

次に、切り離れたカード（実例カード）を目の前の机の上に広げ、全体を「ぼんやり感じ」ました。その「感じ」を「3. 把握シート」を使い短い一文（マイセンテンスと呼びます）で表現しました。参加者からは「計算された完璧な授業をプロデュースしたい」「学生の頑張った成果発表を見るのが嬉しい」などのマイセンテンスが報告されました。

次は、実例カードを、類似性を基準にグループ分けしました。「どれが似ているかな」と自分に問いかけながら進めました。そして、グループごとに「6. パターン抽出シート」に貼付け、基準として感じているグループの共通性を短い一文（パターンと呼びます）で表現しました。この段階は2人1組になり、互いに、相手のパターンと一緒に考える時間をとりました。参加者からは「教師のアイデアと実行力」「学生が日本語に興味を持った」などのパターンが報告されました。

抽出したパターンを「7. パターン一覧シート」に書き留めた後、「8. パターン交差シート」を使い、1つのパターンの前半と別のパターンの後半を組み合わせ、新しいパターンを作る練習をしました。この段階は、難しいと感じた参加者も多かったようです。

最後に、「9. 用語選定シート」を使い、ここまでのTAE作業で気づいたことを表現するキーワードを選定しました。「17. まとめシート」をおこなうかわりに、口頭でまとめをおこない、5～6人のグループでシェア（共有）しました。

会を閉じるにあたり、グループシェアリングで出た話題を、グループ代表者が発表する形式で、参加者全員で、研修会の成果を共有しました。「自分の授業スタイルを振り返ることができた」「自分の教育信念を再確認できた」「初心を思い出せた」「ポジティブな面に集中したのがよかった」といったTAEの感想の他に、「グループに学習者がいたので、教師の立場、学習者の立場の両方から考えることができてよかった」「大学、補習班、ボランティアなど、さまざまな立場の人と一緒にできてよかった」などの感想が聞かれました。仲間のいる「場」の存在の大切さが実感された研修でした。

今回の研修がきっかけとなり、今後も、TAEの学びの輪が広がっていくことを願っています。

参考文献・参考サイト

得丸さと子（2010）『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』（海鳴社）

TAE リフレクション（TAE.net） <http://www.taejapan.org>

TAE 台湾ホームページ <http://taetaiwan.jimdo.com>